

(第3回)

中  
2024

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始まりの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で20ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 始まりの合図で、解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問があるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図で、ただちに筆記用具を置きなさい。



□ 次の【A】は、橋本紡『流れ星が消えないうちに』の一節です。文化祭の最終日、「わたし（本山さん）」は科学部の「加地君」に誘われて、「加地君」がナレーションを務める科学部のプラネタリウムを見ることになりました。本文は、それに続く場面です。【B】は、金子みすず「星とたんぽぽ」の詩です。それぞれを讀んで、後の問いに答えなさい。

【A】

「ここに星が四つ、ボックス状に並んでいますね。これが（注）ペガスス座、つまり天馬の胴体になります。こっちが頭で、逆方向の足に見える星の並びは、実はアンドロメダ座という別の星座です。そのアンドロメダ座の真ん中くらいに、ほんやりしたものがあります。この辺りです。」

ポインターの指す先で、何かが淡く光っていた。

「これが有名なアンドロメダ大星雲です。僕たちの住む銀河系から一番近い銀河で、つまりお隣さんというわけです。ここら辺だと空が明るすぎて無理ですが、ちょっと田舎の方に行けば、このプラネタリウムと同じように、肉眼でも見つけることができます」

この頃には、私はもう彼の説明をあまり熱心に聞いていなかった。ただ彼の声の響きに、流れに、浸っていた。それだけですごく心が落ち着いた。そして少しびっくりしてもいた。こんな存在が、こんな近くにいたのだ。声からわかる加地君の強さ、弱さ、不安、決意……そういうなにかもにわたしははっきりと惹かれていた。誰も彼もがやたらと惚れっぽいギリシャ神話の登場人物のように、わたしの心も大きく動こうとしていたのだ。

「さて、最後に予定外のプログラムですが、牡羊座の説明をします」  
あ、と思った。

牡羊座はわたしの星座だった。

① 本場に予定外だったらしく、さっきの坊主頭の男の子が、「おい、加地、なんだよ」と慌てて囁く声が聞こえてきた。星空が右に左に動き、そうしてしばらく迷った後、ゆっくりと回って、一分くらいしてからとまった。加地君の声が再び地球内に響いた。

「秋の夜空に戻ってきました。牡羊座は見つけにくい星座です。だいたいこの辺りにあるんですが、どうしてこれが牡羊座なのかすぐにはわかりませんよね」

自分の星座だけけれど、実際に星の並びを見るのは初めてだった。そしてそのあまりの地味さに、わたしはがっかりした。明るい星なんてひとつもないし、どう星を繋<sup>つな</sup>げてでも、牡羊の形にはならない。加地君がポインターで示してくれた星の並びは、ただの<sup>(注)</sup>かぎ針のようには見えなかった。

② どうせなら、牡牛座くらい派手な星座がよかった。

中盤くらいで加地君が説明してくれた牡牛座は、明るい星がいくつもあつたし、形もわかりやすかつたし、肩のあたりには有名な昴<sup>すばる</sup>があつたのだ。

わたしの心を見透かしたように、加地君が言った。

「みなさんの中には、牡羊座の方がいて、がっかりしてるかもしれませんね。確かに牡羊座は地味な星座です。でも、実はすごい星座なんです。ギリシャ神話では、牡羊座というのは黄金の羊のことです。そして、ギリシャ神話でもっとも偉い神様である、ゼウスの化身であるとも言われています。たとえば見かけは地味でも、本当はすごい星座なんです」

このとき、加地君はたったひとりに向かって話しかけていた。なぜならプラネタリウムの A した光に浮かび上がる加地君の輪郭<sup>りんかく</sup>は、明らかにわたしの方を向いていたからだ。彼はわたしが牡羊座だと知ってるんだ。

「あと、これは本当かどうかわかりませんが、牡羊座は富の象徴なので、牡羊座の人は将来大金持ちになれる

と言われています」

ちよつと冗談っぽい感じで、加地君はそう言った。わたし牡羊座だったらよかつたなあ、と誰かの**つぶ**く声<sup>つぶ</sup>が聞こえた。くすくす笑い出してしまいそうになるのを堪えながら、わたしは同時に誇らしい気持ちになつていた。わたしは地味だけれど、本当はすごくくて、将来お金持ちになれる牡羊座なのだ。

「牡羊座にはもうひとつ、素晴らしい特徴があります。実は牡羊座は年に一度、大きな流星群の基点になるんです。流星群というのは、流れ星が短い期間にいっぱい流れるつてことです。ただ、牡羊座流星群は昼間に流れるので、目には見えません。でも、僕たちの目には見えてないだけで、本当はものすごくたくさん星が流れているんです。僕は知っています。たとえ星座自体が地味でも、流星群は見えなくても、その素晴らしいさを僕はちゃんと知っています」

わたしはよく、地味な方だと言われる。おとなしいね本山さんは、という感じで。小学校の頃から一緒なので、もちろん加地君はそんな私の性格を知っているはずだ。加地君は何を言いたいのだろうか……。

「牡羊座流星群がどういふふう流れるのか、みなさんにお見せします。この流れ星マシンも僕たちの手作りです。僕と……僕の友達が作りました。今回が初稼働<sup>かどう</sup>なのでうまくいくかどうかわかりませんが、うまくいくことを祈ってください」

その直後、ものすごいことが起きた。天球を無数の流れ星が埋め尽くしたのだ。

【中略】

やがて加地君がしゃがみ込んで腕を伸ばすと、星の流れ出す中心が牡羊座に移った。どうやら加地君が機械の方向を変えたらしい。牡羊座から、わたしの星座から、美しい星々が**あふ**れ出<sup>あふ</sup>す。天球を埋め尽くす。

③「ここで見えない牡羊座流星群です。昼間なので見えなくても、本当はこういう素晴らしい光景があるんです。たとえ見えなくても、こんなふうに美しいって、僕はちゃんと知っています」

④ 顔が熱くなってきた。

暗闇だから、ありがたいことに、誰にも気づかれなければいいけれど。

そのとき、誰かが、

「流れ星に願いをかけよう」

と言った。

「だけど、こんなに流れてるのに、どれにかければいいんだよ」

「ずっと流れてるんだから、適当に願えば、どれかが叶えてくれるんじゃない？」

「あ、そうだよな」

⑤ 誰もがこの光景に浮かれているらしく、あちこちから声が上がった。

「俺、三つくらい願いをかけよう」

「こんだけ流れてるんだから、全部叶はずなものな」

「私は五つにしようっと」

そのちゃっかりした声に、みんなが笑った。まるで全員が昔からの友達であるかのように、親密な雰囲気がドーム内に満ちていた。

「じゃあ、どうぞ。たくさん願いをかけてください。その分だけ、星を流します」

加地君の声も笑っていた。

そして、そこにいた全員が、願いをかけた。ふざけていたわりに、誰もが真剣に願いをかけているらしく、さっきまでの笑い声は消え去って、C した静けさが続いた。わたしの願いはたったひとつだった。今までいろんな願掛けをしたけれど、考えてみれば恋の願掛けは初めてだなと思いつつ、そっと目を閉じた。

(橋本紡『流れ星が消えないうちに』より)

【語注】

- 1 ペガサス座 …… 「ペガサス座」のこと。
- 2 かぎ針 …… 編み物などに用いる先の曲がった形の針。  
一端または両端が、かぎ形になっている針。

【B】

青いお空の底ふかく、  
海の小石のそのように、  
夜がくるまで沈んでる、  
昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、  
見えぬものもあるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、  
瓦かまちのすきに、だアまって、  
春のくるまでかくれてる、  
つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、  
見えぬものもあるんだよ。

（金子みすず「星とたんぽぽ」より）

問一

A

C

に入るもつとも適当な語を、次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア ぐらっと    イ しんと    ウ うつすらと    エ どんと    オ ひゅんひゅんと

問二

部①「本当に予定外だったらしく、さっきの坊主頭の男の子が、『おい、加地、なんだよ』と慌てて囁く声が聞こえてきた」とありますが、こうした「坊主頭の男の子」の様子を、慣用句で表現したのもつともふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 泣きつ面に蜂はち    イ 寝耳に水    ウ 二階から目薬    エ 弘法にも筆の誤り

問三

部②「どうせなら、牡牛座くらい派手な星座がよかった」について、問いに答えなさい。

〈I〉「わたし」がこのように思ったのは、なぜですか。その理由としてもつともふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 初めての自分の星座との出会いに、運命的なものを感じ、喜びをかみしめているから。
- イ 牡牛座に比べて自分の星座が、華やかさもなく紹介されたことを、悲しんでいるから。
- ウ 初めて見た自分の星座が、思ったより地味な姿であったため、がっかりしているから。
- エ 形がわかりにくく、明るい星もまるでない自分の星座に、かえって共感しているから。

〈II〉——部②とは反対に、自分が「牡羊座」であることを、「わたし」が好意的に捉えていることが分かる三十六字の一文を【A】の本文中から探し、はじめの五字をぬき出して答えなさい。（句読点も字数に含まれます。）

#### 問四

——部X「さて、最後に予定外のプログラムですが、牡羊座の説明をします」・Y「たとえば星座自体が地味でも、流星群は見えなくても、その素晴らしさを僕はちゃんと知っています」とありますが、予定外の「牡羊座」のプログラムで、「加地君」は何を伝えようとしていますか。その説明としてもっともふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

A 見かけは地味で飾り気のない牡羊座が、実際には魅力的な星座であるように、「わたし」も自分が持っている人としての魅力に気づき、これからはもっと自信を持って歩んでいってほしいということ。

I 特徴的な星を持っていない牡羊座が、現在では富の象徴と考えられているように、大人になっていく中で、今は見えていない魅力が「わたし」にも必ず見つかるはずだと、自分は信じているということ。

U ゼウスの化身である牡羊座が、本当の姿を隠してあえて目立たない存在でいることと同様に、「わたし」のように魅力を持っている人こそ、自分自身の魅力を周囲の人に見せたりはしないということ。

E 牡羊座が実はすばらしい特徴を持っているように、昔から目立たずおとなしい性格に見られてしまう「わたし」にも、人としてすばらしい魅力があることに、自分はしっかり気づいているということ。

#### 問五

——部③「ここでしか見えない牡羊座流星群です」とありますが、「牡羊座流星群」がここでしか見られないのは、なぜですか。その理由を説明した次の [ ] に適する表現を、【A】の本文中から六字でぬき出して答えなさい。

「牡羊座流星群」は [ ] ため、実際の空では見ることができず、プラネタリウムの中でしか見ることができないから。



問八

【A】の本文を読んだ四人の生徒が、授業で【B】の詩を読み、それぞれの特徴や表現について、感想を述べ合っています。これについて、問いに答えなさい。

ゆうき

【A】の「わたし」みたいに、「加地君」から、プラネタリウムの上映中にあんな素敵な言葉を言われたら、ほんとにびっくりするだろうなあ……。

ななみ

そうだね。【A】は、「わたし」の視点から、文化祭の最終日に行われたプラネタリウムの上映会の様子が描写されており、上映会の進行に合わせて、「わたし」が過去の自分自身について思い返している描写もあるね。

【A】と【B】とを読み比べてみると、【A】の「牡羊座」と、【B】の「昼のお星」は、どちらも「見えぬけれどもある」存在として描かれていて、共通点があるように感じたよ。

みさき

そういえば、【A】も【B】も、さまざまな特徴的な比ゆが使われているよね。【A】の「牡羊座」は  a  に、【B】の「昼のお星」は  b  にたとえられているね。それ以外にも、【A】では「ギリシャ神話の登場人物のように」「まるで全員が昔からの友達であるかのように」など、いろんな場面で比ゆが多用されているよ。

ひろと

ほんとうにそうだね。小説でも詩でも、さまざまな場面で特徴的な比ゆが用いられることで、たとえられている人物や物について、 c  と思うなあ。

Ⅰ  に入るもつとも適当な語句を、【A】の本文から三字でぬき出して答えなさい。

Ⅱ  に入るもつとも適当な語句を、【B】の詩から四字でぬき出して答えなさい。

Ⅲ  に入るもつとも適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 書き手の心の中を想像させて印象を強くしている

イ 客観的な事実から姿をイメージすることができる

ウ 読み手に多様な解釈をさせて緊張感を与えている

エ その内面や様子を具体的に想像することができる

Ⅳ  部「『見えぬけれどもある』存在」とありますが、【A】や【B】で述べられている「『見えぬ

けれどもある』存在」について、生徒が授業で具体例を考えました。具体例として正しくないものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 家の土台は、外からは見えなくても、たしかに存在している大切なものだよね。柱から伝わる重みを均等にして、家全体でバランス良く建物を支える働きをしてくれる、家にとってはなくてはならないものだね。

イ 人の感情は目に見えないけれど、たしかに存在しているものだよね。楽しかったり、悲しかったりと、その人の表情からは、はっきり分からない時でも、その人の心の中にしっかりと存在しているものだと思うよ。

ウ 小説で描かれる空想の世界は、見ることはできないけれど、小説の中ではたしかに存在しているよね。文章でしか読むことができないからこそ、その様子や姿を自由に想像することができて、わくわくしちゃうね。

エ 外を歩いている時に感じる風は、目で見ることができないけれど、たしかに存在しているよね。旗がなびいたり、物が転がったりする様子など、風を間接的に感じることは、日常生活の中でたくさんあると思うな。

二

次の詩は、詩人としてだけでなく、彫刻家としても有名な高村光太郎が書いたものです。この詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

山

① 山の重さが私を攻め囲んだ

私は大地のそそり立つ力をこころに握りしめて

山に向かった

山はみじろぎもしない

山は四方から森厳な静寂をこんこんと噴き出した

② たまらない恐怖に

私の魂は満ちた

ととつ、とつ、ととつ、ととつ、と

底の方から脈うち始めた私の全意識は

忽ちまっばだかの山脈を押し返した

「無窮」の力をたたえろ

「無窮」の生命をたたえろ

私は山だ

私は空だ

またあゝの狂った種牛だ

又あの流れる水だ

私の心は山脈のあらゆる隅隅をひたして

其処に満ちた

みちはじけた

山はからだをのして波うち

際限のない虚空の中へはるかに

又ほがらかに

ひびき渡った

③ 私の日光は一ぱいにかがやき

私は耳に天空の勝鬨をきいた

山にあふれた血と肉のよろこび！

底にほほえむ自然の慈愛！

私はすべてを抱いた

④ 涙がながれた

※みじろぎ …… 身を動かすこと。身動き。

※森厳 …… 秩序整然としていて、厳かな様。

身が引き縮しまるように厳かな様。

※無窮 …… 果てしないこと。無限。永遠。

※のして …… のす。伸ばして。

※際限 …… 移り変わっていく状態の最後のところ。きり。限り。果て。

※虚空 …… 何もない空間。大空。

※勝鬨 …… 戦いに勝ったときにあげる鬨ときの歌。

凱歌。

※慈愛 …… 親が子どもをいつくしみ、かわいが

るような、深い愛情。

問一 この詩は、何連で構成されていますか、解答らんに合わせて、漢数字で答えなさい。

問二 —部①「山の重さ」とはここでは何を表していると考えられますか、不適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生命力    イ 壮大さ    ウ 陰気臭さ    エ 活力

問三 —部②「たまらない恐怖」とありますが、なぜ「私」は「たまらない恐怖」を感じたのですか、もっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 目の前の山があまりにも大きくて、自分一人で山頂まで登り切れるか不安になったから。

イ 目の前にある大きな山を見て、自分の存在の小ささや未熟さを感じ、圧倒され、うろたえたから。

ウ 遠くにそびえたつ大きな山のうっそうとした様子に、飲み込まれてしまいそうな胸騒ぎを感じたから。

エ 遠くにそびえたつ山脈を見ていると、はるか昔からつながってきた自然の歴史を感じ、感動したから。

問四 —部③「私の日光」とありますが、「私の日光」とはここでは何を表していると考えられますか、もっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自信に満ちた私自身    イ 個性あふれる才能

ウ 希望に満ちていた過去    エ 発展を遂げる社会

問五

——部④「涙がながれた」という表現について、授業で話し合いをした次の生徒の発言のうち、明らかにこの詩を読み誤って発言しているのは誰ですか、次から一人選び、生徒の記号で答えなさい。

生徒A…詩人・高村光太郎は、偉大な自然を前にして、自分自身に劣等感れつとうかんを覚えたのだと思うけれど、そんなところを含めたありのままの自分を受け入れることで、愛を感じることができたのだと思います。

生徒B…詩人・高村光太郎は、詩人としてだけでなく、彫刻家としても有名になることを目指していたので、自然でさえも、自分の彫刻の材料になることに気づいて、感動したのではないのでしょうか。

生徒C…人は、雄大な自然の前に、自分の存在が取るに足りないもののように感じられることがあると思います。しかし、そのような自分でも自然に守られていることが分かり、心が震えるほどの感動を覚えたのではないのでしょうか。

生徒D…詩人・高村光太郎は、自然の計り知れないエネルギーに一度は押しつぶされながらも、そのエネルギーを自らのうちに取り込んで、力にすることができ、明るい兆しを感じることができたのではないかと思います。

三 次の歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 白露しろつゆに風の吹きしく秋の野はつらぬきとめぬ（ 1 ）ぞ散りける

B ① 金色いのちひさき鳥いのかたちして銀杏いちょう散るなり夕日の岡に

C ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔とうの上なる一ひらの雲

※つらぬきとめぬ …… ひもを通してむすんでいない

問一 Aの歌は、「草木の上に降りた白い露が、風で吹き飛ばされて美しく散っていく様子」を詠よんだものですが、（ 1 ）に当てはまる言葉としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 玉 イ 栗 ウ 石 エ 雲

問二 — 部①「金色のちひさき鳥」とは、何をたとえたものですか、Bの歌からぬき出し、一語で答えなさい。

問三 Cの歌について述べられたものとしてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 遠くに浮かぶ一片の雲を見ていると、静かにたたずむ薬師寺の塔が思い出され、しみじみと去り行く秋を思い、心にとめている。

イ 長い歴史を持つ薬師寺を見上げると、塔の上に細々と浮かぶ雲が見え、権力にしいたげられてきた人々が思い出され、自然と涙が流れた。

ウ 莊嚴な薬師寺を見上げると、その塔の上に一片の雲が浮かんでいるのが見えて、暮れていく秋といにしへの都とに思いをはせた。

エ 晩秋、過ぎゆく季節を感じながら空を見上げると、不気味な入道雲が遠くに見え、薬師寺がかもし出す不思議な雰囲気を感じた。

問四 Cの歌で用いられている表現技法としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 枕詞まくらことば    イ 対句    ウ 倒置法    エ 体言止め

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学時代は、人生で非常に重要な時代になると①言われている。心身共に豊かな成長を遂げる中学時代に、何をして、何を考え、どのように心を揺さぶられたのかは、その後の人生を左右する「種」とも「栄養」ともなる。その一方で、思春期を迎え、自分自身や社会とのつながりと向き合わなければならぬ時期でもある。自分の中の言葉にできない思いで心が荒ぶることもあるだろう。時には怒りに任せて（2）になることもあるかもしれない。しかし、それすらも、のちの人生においては大切な宝物になるだろう。ただ、覚えておいてほしい。どんなに、あなたの心が離れていっても、あなたを大切に思う人がいるということ……。その人たちの言葉は、「（3）」と言われるとおり、今は素直には受け止められず、面倒なことに思えるかもしれないが、心にとめておいてほしい。小学校の卒業式の日、校長先生から（4）もらう（ ）た手紙を時々読み返す。そこには、厳しい言葉を用いながらも、未来を歩く「私」への期待に満ちた言葉がつづられていた。

問一 ——部①「言われている」の主語をぬき出さない。

問二 （2）に当てはまる四字熟語としてもつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 一喜一憂      イ 自暴自棄      ウ 奇想天外      エ 疑心暗鬼

問三 （3）に当てはまることわざとしてもつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 対岸の火事      イ 一を聞いて十を知る      ウ 転ばぬ先の杖      エ 良薬は口に苦し

問四 ( 4 もらう ) を、文脈ぶんまつに合わせて適切な敬語表現に直し、文章に合うように活用させて(形を変えて) 答えなさい。

**五**

次の□に当てはまる、共通する漢字は何ですか、それぞれ答えなさい。また、その部首名をひらがなでそれぞれ答えなさい。

- 1 □が熱くなる □がつまる □がおどる
- 2 反□ □接室 因果□報

**六**

次の―部の漢字の読みを答えなさい。

- 1 ものすごい形相で見ている。
- 2 裏道を通る。
- 3 著名な作家の本を読む。
- 4 納入期日を守る。
- 5 敵を討つ。

七

次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 オンシの言葉が思い出される。
- 2 ホガらかな笑顔で話している。
- 3 ボケツをほるようなことはしない。
- 4 宿題を早めにスめます。
- 5 センレンされた技が光る。



